

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績1

事業者	団体名	喘息患者会「いなば会」	代表者	生田 誠一
	団体の主な活動	喘息で苦しんでいる患者や家族に手を差し伸べ、患者同士が助け合い、励ましあって喘息発作の予防、治療、生活向上に努めるため、以下の活動を行う。 1. 喘息デー「公開講演会」 2. 学習会 3. レクリエーション など		
事業内容	助成事業名	第13回喘息デー「喘息治療講演会」		
	事業目的	喘息患者の喘息死を防止し生活の質を向上させる		
	事業の内容	喘息に苦しむ患者、家族に治療方法等の正しい情報を伝えるため、全国的な喘息デー（第13回）において、喘息治療に関する講演会を開催する 		
	実施場所	県民文化会館	実施日	平成17年10月1日
	対象者	県内外の気管支喘息患者及び家族	参加人数	89人
	事業実施による効果	鳥取県東部でも、国全体でも喘息死は人口10万人当たり約3人(2003年)で内60歳以上が90%を占めており、高齢者の喘息死亡予防が最も大切である。講演等を通じ、ステロイド吸入薬の普及(現在13%)を図る事ができる。		
	今後の活動の展望	各種調査で喘息患者の治療は不十分であり、そのため社会経済的損失は甚大である。喘息患者にとり、ステロイド吸入薬の普及を図る事が重要である。継続的な講演会活動等でステロイド吸入薬の普及を現在13%位から欧米並みの25%くらいに高めていきたい。日常の発作を防ぐ薬の使用を重要性を理解しない患者もみられ、継続的な受診を促す。		
費用	総事業費(円)	121,066円	助成金額(円)	90,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績2

事業者	(団体名)	学び支援ネットinとっとり	代表者	西村 健二
	団体の主な活動	子どもの特質向上及び健全育成をとおり、地域社会に貢献するため、以下の活動を行う ・会員相互の意見交換 ・地域社会への貢献活動(教育ふれあいプラザ)		
事業内容	助成事業名	不思議体験ゾーン		
	事業目的	子ども達の理数離れが深刻化している。パズルなどに取り組む体験から、理科・数学に対する興味ひき、学習意欲の向上を目指す。		
	事業の内容	以下の4つのコーナーを設置し、参加者が自由に移動し、パズルや理科の実験、数学の問題等に取り組む。 ・クイズに挑戦コーナー ・ペーパーキューブに挑戦コーナー ・図形パズルに挑戦コーナー ・「なぜなの？」と感じるコーナー		
				
	実施場所	アクティブとっとり (さがんか会館2階)	実施日	平成17年9月25日、11月13日 いずれも自由な時間に参加できる
	対象者	小学生、中学生	参加人数	266人
	事業実施による効果	・子どもたちが実験を通して理科の楽しさを体験できた。 ・数学パズルを考えることにより、集中力の重要性、解いた時の喜びを感じることができた。 ・図形パズルを完成させる過程で、試行錯誤することの有効性を理解し、イメージすることの必要性を認識できた。 ・サッカーボール等の立体を作成することで平面から空間へとイメージを広げられることと、組み立てには正確な作業が大切であることを学べた。		
今後の活動の展望	・毎年、子どもたちの成長の促進につながるような、「教育ふれあいプラザ」(不思議体験ゾーン)を実施しつつ、中身をよりよいものに充実させていきたい。 ・新たな会員を募りつつ、活動の回数を増やしていきたい。			
費用	総事業費	128,070円	助成金額	96,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績3

事業者	団体名	タイム (とっとり国際交流連絡会)	代表者	ケイツ 佳寿子
	団体の主な活動	国際理解の促進と国際交流、在住外国人支援のため、以下の活動を行う ・国際交流フェスティバル等の開催 ・留学生支援活動(バザーなど) ・機関紙の発行 など		
事業内容	助成事業名	タイムセミナー 第2回ハンガーバンケット		
	事業目的	真の国際理解のために、現代社会の主要問題の1つである飢餓と貧困の問題を考える。講演などを通して知識を得、さらにシュミレーションを行なって、この問題の深い理解を目指す。		
	事業の内容	[講演・シンポジウム] 長年飢餓問題に取り組んできている日本国際飢餓対策機構からのゲストスピーカー竹内緑氏による講演「私が見たアフリカの子供たち」。アジア、南米、北米から外国人による飢餓問題に対するコメント。 [ハンガーバンケット] 参加者の15%をリッチなグループ、25%をミドルグループ、60%を貧しいグループに分ける。それぞれのグループの食事情は実際の世界の食事の状況を表しており、参加者は世界の実情を模擬体験する。 [ディスカッション] 模擬体験から世界の実情について、それぞれの立場から意見を述べ合い、新しい発見や今後自分達がどうすべきかについて話し合う。		
	実施場所	県民文化会館 (展示室,リハーサル室)	実施日	平成17年6月26日
	対象者	鳥取在住者	参加人数	152人(ハンガーバンケットチケット購入者85人)
	事業実施による効果	講演等により世界の貧困と飢餓の現状への理解を深めてもらうことができた。続けて行なったシュミレーションでは、参加者自らが十分に食べられる少数の人、また1日1度は食事のできる25%の人々、それ以外の多くの人々は満足に食事ができない人々と分けられ、世界の食の現実を体験した。そのことで多くの参加者はその立場に戸惑いを覚え、そして世界でどれぐらいの人が飢えているのか、飢餓の原因は、そしてこれから自分達に何ができるかを考えることができた。		
今後の活動の展望	タイムは年4回のセミナーを予定し、その中で会員及び鳥取在住の人々に様々なテーマを提供し、更なる国際理解を深める活動を続けていく。平成17年10月にはワンワールドウィークを予定している。			
費用	総事業費	249,070円	助成金額	100,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績4

事業者	団体名	鳥取おやこ劇場	代表者	安木 三奈子
	団体の主な活動	おやこで生の舞台を鑑賞することを目的に以下の活動を行なう。 ・年5回のプロによる舞台作品の鑑賞 ・キャンプ ・機関紙の発行 など		
事業内容	助成事業名	北島尚氏の子育て講演会とワークショップ		
	事業目的	子育て中の親が、地域の中で連携して子ども達の育成を行なっていくため、リーダーとなれる人材を育てること。		
	事業の内容	[講演] 北島尚氏(遊び・環境・Museumアフタフ・バーバン主宰)による、地域の中での子育ての話。子どもをとりまく環境の変化。特に「関わる」ことを拒絶する社会の中での子供達の孤独についての講演。 [ワークショップ] 子育てに関わる人たちがワークショップ形式で、実際にゲームをしながら「関わる」ことを学びました。コミュニケーションの技術を磨き、「関わる」喜びを実感した。		
				
	実施場所	県民文化会館 (展示室、リハーサル室)	実施日	平成17年10月12日
	対象者	子育て中の保護者	参加人数	43人
	事業実施による効果	30代前半から50代まで、様々な年齢のお母さん達が集まり、表現遊びに取り組んだ。見知らぬ人が多い中で自分を解放し、表現しながら「関わる」ことを徹底的に学んだ。		
	今後の活動の展望	鳥取おやこ劇場として、バザー、キャンプ、「メディアと子ども」勉強会などの企画、運営をしていきたい。		
費用	総事業費	93,605円	助成金額	51,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績5

事業者	団体名	山本徳次郎翁顕彰の会	代表者	川上 博
	団体の主な活動	鳥取県の無形民俗文化財「因幡の傘踊り」の創始者、山本徳次郎翁の功績と遺徳を偲ぶとともに、「因幡の傘踊り」を広くPRし、また後継者を育成するため、以下の活動を行なう。 ・山本徳次郎翁を偲ぶ会 ・傘踊り講習会、継承会 ・清掃、美化活動 など		
事業内容	助成事業名	山本徳次郎翁を偲ぶ会		
	事業目的	「因幡の傘踊り」の継承と交流活動を通じて、地域の誇りと宝である子どもたちの郷土への愛着心を育む。		
	事業の内容	[清掃活動] 山本徳次郎翁顕彰碑付近の美化・清掃 [傘踊り講習会] 保育園児、小学校児童及び中学生生徒を対象に、技術上達と後継者育成を目的にした「因幡の傘踊り」の講習を実施。 [山本徳次郎翁を偲ぶ会] 因幡の傘踊り、手笠踊り、銭太鼓など地域伝統芸能の披露競演を行なう。また、紙芝居等により山本徳次郎翁を紹介する。		
		 		
	実施場所	谷地区公民館 など	実施日	平成17年8月27日
	対象者	保育園児、小学校児童及び中学生生徒及び一般市民	参加人数	250人
	事業実施による効果	「因幡の傘踊り」の継承と、地域の文化遺産のすばらしさをあらためて認識し、地域の誇りとして自信を深めることができた。さらに、様々な文化芸能の競演により、地域住民をはじめ大人と子ども世代間の一層の交流を図ることができた。		
	今後の活動の展望	「山本徳次郎翁を偲ぶ会」の実施や講習会、清掃活動とも、将来にわたって恒久的に続けていくとともに、参加者の増大を目指していく。		
費用	総事業費	212,063円	助成金額	100,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績6

事業者	団体名	湖山池振興協議会	代表者	池沢 知一
	団体の主な活動	湖山池周辺の観光振興及び池周辺の地域づくりを目的に、湖山池広域圏の観光振興策の調査提言、湖山池周辺地域の景観の修復作業や広報活動を行う。		
事業内容	助成事業名	湖山池 三津・矢山遊歩道及び広場補修復元事業		
	事業目的	三津・矢山の遊歩道や広場を補修復元し、頂上からの景観を広く一般市民、小中学生に提供する。		
	事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、作業のための人道を開く ・7月、笹竹用薬剤フレノック(竹枯らしの薬剤)散布 ・3月、笹竹刈取り整理 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
	実施場所	湖山池 三津・矢山	実施日	平成17年4月 ～平成18年3月
	対象者	一般市民(特に小中学生)	参加人数	49人
	事業実施による効果	<ul style="list-style-type: none"> ・矢山の利用者増進、特に小中学生の利用が一般化した。 ・遊歩道の看板により、一般利用が可能なことも周知が進んだ。 		
	今後の活動の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・矢山の利用者の広域化が進む ・矢山の本格的な山上の市民公園化が進む 		
費用	総事業費	273,640円	助成金額	200,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績7

事業者	団体名	特定非営利活動法人 ラーバンマネジメント	代表者	加嶋 襄
	団体の主な活動	市民によるまちづくりの担い手として活動し、公益の増進・福祉に寄与することを目的として、ラーバンだよりの発行、まちづくりに関する意識調査などを行なう。		
事業内容	助成事業名	ラーバンだより発行 事業		
	事業目的	まちづくりに取り組むグループとその課題を取り上げる情報誌「ラーバンだより」の発行。		
	事業の内容	<p>遷喬地区、日進地区、明德地区の3地区を対象に各地区で特徴のある話題を取り上げ、座談会形式で放談会を行い、この様子を「ラーバンだより」に掲載する。また、まちづくりに関する情報を掲載する。発行した「ラーバンだより」は主に対象の3地区各戸に配布する。</p> 		
	実施場所	遷喬地区、日進地区、 明德地区	実施日	平成18年2月 ～平成18年3月
	対象者	遷喬地区、日進地区、 明德地区の住民	参加人数	3,608人 (「ラーバンだより」を 配布した戸数)
	事業実施による効果	各地区のまちの歴史やまちに関する話題を座談会方式で行う等、町の交流状況をつぶさに把握しながら、住民を中心に「たより」で情報伝達する事で、まちづくりの意識高揚が図られ、住民参画の意識が高まる。		
	今後の活動の展望	地域の住民、自治会、企業、大学と連携できるテーマと、協働を目標に活動を進める。		
費用	総事業費	188,287円	助成金額	141,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績8

事業者	団体名	あおやよーいドン！ まちづくり協議会	代表者	井上 耕之介
	団体の 主な活動	<p>時代のスピード化と情報の氾濫により人の心が失われつつある昨今、ゆったりとした川の流れや自然が肌で感じられ、青谷町が持つ歴史・文化・産業・心意気が活かされるような地域づくりに貢献することを目的に以下の活動を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前、中町周辺の日置川に和紙灯籠を設置 ・日置川護岸改修整備に伴う周辺住民アンケートの実施と鳥取県への改修計画案の提出 ・青谷町そぞろ歩きマップ「BURARI」制作、配布 など 		
事業内容	助成事業名	ゆめ灯籠流し		
	事業目的	日置川を舞台に青谷の光をともし、ゆったりとした川の流れを肌で感じられる住みよい環境づくりと子ども達のより一層の深い郷土愛を促進する。		
	事業の内容	<p>雨風に強い60基の和紙灯籠を設置した青谷町日置川を舞台に、あおや夏まつりの日、小学生が環境に優しい和紙で作成した灯籠(ゆめ灯籠)で灯籠流しを行う。</p> <p>(協力団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に優しい灯籠用和紙の開発・・・あおや和紙工房、地元和紙業者 ・小学生による紙漉とゆめ灯籠の作成・・・青谷小学校、あおや和紙工房 ・ゆめ灯籠流し・・・青谷サービス商店街、小学生保護者、学校職員、地域住民等 		
	実施場所	日置川河畔	実施日	平成17年7月30日
	対象者	青谷小学校児童 保護者	参加人数	200人(青谷小学校児童150人、保護者50人)
	事業実施 による効果	子ども達と保護者、地域住民が体験するであろう感動による郷土にたいする愛情と誇りの醸成。		
	今後の 活動の展望	今までにない地元の歴史、文化、産業と住民の結びつきで新たな夢と郷土への愛情、誇りが生まれ、観光PRと環境美化促進に貢献することができる。		
費用	総事業費	250,097円	助成金額	187,000円



平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績9

事業者	団体名	河内川を考える会	代表者	安藤 博
	団体の主な活動	河内川をどのようにデザインするか、また、雑草・ごみ・水質等について河内川をどのようにして守ればいいのかを、皆で一緒に考え、取り組むことを目的に以下の活動を行なう。 ・河内川堤防、河川敷の草刈 ・川に親しむイベントの実施		
事業内容	助成事業名	河内川賛歌の制定普及事業		
	事業目的	作曲者に依頼し、「河内川賛歌」を制定。楽譜やテープを配布し普及を行う。また、地域に広めるため「合併1周年記念とっとりきらめき祭」(平成17年11月)や「気高町文化祭」で発表、披露する。		
	事業の内容	気高町宝木・瑞穂地区を流れる2級河川「河内(こうち)川」。昔から家庭用水として、農業用水として、そして子どもの遊び場として大切にされて来た。河内川の歴史を学び、環境を守り、河と親しむことにより、子どもたちへこのすばらしい財産を伝えていくとともに、「河内川賛歌」を作り普及させることにより、郷土を愛する心を育む。		
	実施場所	鳥取市気高町宝木 (公民館)など	実施日	平成17年5月～11月
	対象者	会員及び地区住民 ・流域住民	参加人数	200人
	事業実施による効果	河内川の環境保全と地域の連携。川を大切にする気持ちの向上。		
	今後の活動の展望	河内川に対する関心を高め、年次計画的に活動を深める。賛歌を歌い連帯感を高める。		
費用	総事業費	127,708円	助成金額	95,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績10

事業者	団体名	鳥取市むつみカレッジ	代表者	川口 博子
	団体の主な活動	男女共同参画の推進を目的に、35グループで構成される学習グループが年間行事を遂行する。		
事業内容	助成事業名	講演会「生き生きシニアライフに向けて～家事や介護を女も男も～」		
	事業目的	少子高齢化社会、男女共同参画推進、生涯学習の取り組みなど、今後の我々の生活にとって必要不可欠な分野の学習を進めることにより、会員の資質向上と更なる活動発展及び市民への意識向上、意識啓発、次世代への理解を深め、地域社会の活性化を図る。		
	事業の内容	<p>尼崎市立助成センター「トレピエ」所長である須田和氏を講師に招き、講演会を行なった。</p> 		
	実施場所	鳥取市福祉文化会館 会議室	実施日	平成17年12月10日
	対象者	一般市民、会員、鳥取市男女共同参画登録団体等	参加人数	107人
	事業実施による効果	<p>これからの超高齢化社会に向けてシニアライフの活かし方を多くの市民に広め、また、男女共同参画社会の推進、生涯学習の重要性などの学習を深めることにより今後の当団体活動の活性化を地域活動、男女共同参画推進活動の更なる活性化につなげた。今後の生活において男も女も助け合い、家事も介護もする必要性を習得した。</p>		
	今後の活動の展望	更に男女共同参画社会へ推進活動することに力を注ぎたい		
費用	総事業費	85,616円	助成金額	63,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績11

事業者	団体名	特定非営利活動法人 鳥すばnet	代表者	朝野 和隆
	団体の主な活動	鳥取市を中心とした地域住民に対して、インターネットでスポーツ、文化の情報発信に関する事業を行い、スポーツ文化振興に寄与することを目的とする。		
事業内容	助成事業名	スポーツ教室		
	事業目的	子ども達が取り組むスポーツ活動の内容は、学校や地域で異なる。普段は違う環境で違う活動に取り組む子ども達が集まり、学校や地域の枠を越えたスポーツをとおした交流をすることで、協調性やお互いを思いやる気持ちを育み、スポーツに対する興味の向上や他校との生徒の親睦を図ることを目的とする。		
	事業の内容	20人のグループでストレッチングやクールダウンの正しいやり方を説明を交えながら実践する。ボールを使った競技を行なう。(保護者も参加)		
				
	実施場所	鳥取市立岩倉小学校体育館	実施日	平成18年3月26日
	対象者	小学生及び保護者	参加人数	73人
	事業実施による効果	普段は違う環境で違う活動に取り組むことで、協調性やお互いを思いやる気持ちが育まれ田と思います。 スポーツに対する興味の向上や他校との生徒、親子間の親睦も図れたと思います。		
今後の活動の展望	集まった児童がどの競技に興味があるかわからなかった為、漠然としたメニューになってしまった。今後はどの競技に参加したいか競技を絞り込むためのアンケートを行い、各競技の教室をしていきたい。			
費用	総事業費	72,800円	助成金額	54,000円

平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績12

事業者	団体名	平和学実行委員会	代表者	山口 敦史
	団体の主な活動	「世界が平和になるために自ら考え、広く世間一般に知らせる」ことを目的に、市民向けの勉強会、講演会、鳥取大学の授業のコーディネートや、世界各国の訪問を行なう。		
事業内容	助成事業名	インド・パキスタン地震支援連続企画		
	事業目的	このイベントを通して鳥取市民にインド・パキスタンの現状を知らせるとともに、「世界のいま」を写真と講演によって市民とともに考え理解する。		
	事業の内容	<p>[講演会] 「インド・パキスタン地震の現地報告」 講演者:鳥取大学留学生 「フォトジャーナリストの語る真実～日本のかたすみから世界を見つめる～」 講演者:フリージャーナリスト 広河隆一氏</p> <p>[食文化体験] インド・パキスタンの食文化を体験する。 鳥取大学留学生によるインド・パキスタン地震の現地報告をする。</p> <p>[写真展] 「世界の子どもたちが一度に笑えば」 (学生が世界各国で撮影した写真の展示会)</p> <p>[路上ライブ] 歌を歌いながら鳥取駅前を歩き、募金活動をする。</p>		
	実施場所	鳥取県民文化会館、 鳥取大学ほか	実施日	平成17年12月 ～平成18年2月
	対象者	一般市民	参加人数	900人
	事業実施による効果	市民に「世界のいま」を知ってもらうことができ、新たな市民活動の芽となった。同時にこれらのイベントに参加してもらった仲間よりの暖かい募金を現地の復興のために贈ることができた。		
	今後の活動の展望	現在、この活動に参加した仲間が、インド・パキスタン地震発生後の状態を調査すべく現地に赴いているが、その報告会や写真展なども同時に開催したい。		
	費用	総事業費	134,818円	助成金額



平成17年度市民活動促進助成金交付事業 事業実績13

事業者	団体名	特定非営利活動法人 ピーグル	代表者	福田 鶴枝
	団体の主な活動	<p>広く県民に対して、人権、社会教育、まちづくりなどの啓発等に関する事業を行い、行政や企業、民間とのパートナーシップに寄与することを目的に、・国民文化祭ボランティアセンター運営、男女共同参画事業所リーダー養成事業委託事業、不登校、障害のある子どもたちとの農業体験、を行なう。</p>		
事業内容	助成事業名	きなんせ節サンババージョンによるしゃんしゃん祭り市民参加事業		
	事業目的	<p>市民に愛されるべき鳥取市の一大イベントでもあるしゃんしゃん祭りが、マンネリ化し、本来の目的を果たせてない現状の中、子どもから高齢者、また市民のみならず県外観光客にも楽しんでもらえる参加型のしゃんしゃん祭りの実現を目指す。</p>		
	事業の内容	<p>しゃんしゃん祭り一斉踊り用の振り付けを新たに作ってもらい、まず核となるダンスチームで踊りを覚える。 (参考) 振付師 金谷 有記 氏 ダンススタジオ リミックス 在籍 ・振り付け サンバを基調に、しゃんしゃん祭りにふさわしく、また老若男女が誰でも簡単に踊れる振り付けを考案。 ・金谷氏を中心に、高校生、20代前半の若者のダンサーを中心としたダンスチーム(10人)を結成 ・衣装 浴衣風の衣装で、踊りの邪魔にならず、またしゃんしゃん祭りの一斉踊りの中でなじみ、子どもでも簡単に着られる、長時間着ても疲れない、崩れないなどを考慮して選択</p> 		
	実施場所	ダンススタジオ	実施日	平成18年2月～3月
	対象者	一般市民	参加人数	10人
	事業実施による効果	<p>・高校生や20代の若者を中心に事業を展開したため、今までまったくと言っていいほど市民活動に無関心だった世代が、しゃんしゃん祭りに興味を示し、また、「役立ち感」を実感することで、新たな生きがいを見だし、活気づいた。 ・しゃんしゃん祭りに関心の低かった市民が、「きなんせ節」と「サンバ」がドッキングした新しい踊りで、誰でも踊れるということで、祭りへの興味、期待度が高まった。 ・民謡とダンスの組み合わせにより、子どもから高齢者まで、関心を持っていただくことができた。 ・合併による新市の方々からも問い合わせがあり、幅広い地域、世代の方の興味、関心を引いた。</p>		
	今後の活動の展望	<p>各地区の公民館、学校、保育園、施設等に、金谷氏を中心としたダンスチームメンバーが出向き、完成したダンスを継続的に普及活動をしていき、8月のしゃんしゃん祭りを市民参加型の盛大なお祭りしていきたい。</p>		

費用	総事業費	355,000円	助成金額	200,000円
----	------	----------	------	----------